



### 神原渡 1

岩木川下流部、現在の神田橋付近、神原村(五所川原市金木)と対岸の繁田村(つがる市稲垣)を結ぶ渡場。金木新田・広須組開拓の進展とともに設置されたと考えられます。享和2年(1802)新田地方を巡視した9代藩主津軽寧親、嘉永5年(1852)東北巡遊中の吉田松陰ほかが利用しています。明治13年(1880)の記録では、幅84間(153m)・馬船1艘とされています。明治41年(1908)神田橋竣工に伴って廃止されました。

### ■吉田松陰ゆかり之地碑

嘉永5年(1852)3月3日東北巡遊中の吉田松陰が川を渡ったことを記念して、平成11年(1999)白川兼五郎によって神原の渡し跡(現在の神田橋)付近に建立されました。

### 川倉芦野堂 2

津軽三十三観音第13番札所。本尊聖観音。寛文8年(1668)あるいは12年(1672)勧請とも伝えられます。安政2年(1855)飛竜三社大権現に改称しましたが、明治4年(1871)神仏分離により大山祇命・大国主命・水波女命を祭神とする三柱神社を分立しました。観音堂は廃堂となりましたが、昭和5年(1930)三柱神社境内に再建されました。

### 芦野(2)遺跡 3

藤枝溜池(芦野湖)東岸、川倉地藏尊堂付近に位置する縄文遺跡。昭和43年(1968)県立金木高校郷土研究部員によって調査され、包含層より縄文前期を中心とする土器群が出土しました。出土土器は同部顧問の名久井文明によって、芦野第一群土器・同第二群土器に分類されました。後者は深郷田式並行に位置付けられ、北日本を代表する縄文土器である「円筒土器」の源流とみなされています。

### 川倉地藏尊 4

藤枝溜池のほとりに位置する霊場。創建については未詳ですが、円仁(慈覚大師)開創で、金木村雲祥寺が慶長元年(1596)再興したとする説、享保年間(1716~36)の6月23日夜半、当地に天から光が射したことから、深郷田村善導寺が地藏菩薩を安置したとする説などが伝えられています。毎年旧暦6月23・24日の地藏祭にはイタコが集まり、死者供養に訪れる参詣者が賑わいます。



### 藤枝溜池 5

梵珠山西麓にある溜池で、芦野湖とも称します。面積43.3ha・有効貯水量228万2000■・灌漑面積90ha。元禄11年(1698)堰溜池大川堤奉行を命じられた徳田伝兵衛が築造、3年後の元禄14年(1701)完成しました。

衛が築造、3年後の元禄14年(1701)完成しました。

### 太宰治銅像(芦野公園) 6

平成21年(2009)太宰治生誕100年を記念して、太宰治文学碑近くに建立されました。三鷹市の自宅付近を散歩している35歳当時の写真を基に、彫刻家中村晋也が制作しました。二重マントを羽織った下駄履き姿で復元され、視線は生家である斜陽館方面に注がれています。



### 太宰治文学碑(芦野公園) 7



昭和40年(1965)芦野公園内に建立されました。不死鳥と檻をモチーフとした碑は、太宰の学友阿部合成(青森市出身)によるもの、碑文は、太宰と親しかった作家壇一雄・伊馬春部撰文により、ヴェルレーヌの詩の一節「撰ばれてあることの恍惚と不安と二つわれにあり」が刻まれています。

### 太宰治文学碑(金木小学校) 8

昭和50年(1975)金木小学校創立百周年を記念して、同校校庭に建立されました。碑文は太宰の直筆、昭和11年(1936)長兄津島文治宛ての手紙に記された「微笑誠心 修治」に基づいています。

### 旧西沢家住宅[国登録有形文化財] 9



昭和8年(1933)完成の鉄板葺木造二階一部平屋建て。小泊村(中泊)出身の西沢家は、北海道礼文島の鯨漁場で財を成しましたが、大正時代金木村に移転し、農業でも成功を収めました。

### 金木館跡 10

金木集落西端、金木川右岸の台地上に立地する城館。「高屋敷」と通称されます。宅地化が進行し、詳細は不明ですが、かつては空堀跡が存在したとされます。館主として、浪岡北畠の家臣金木弾正忠、あるいは対馬右衛門太郎なる豪族の名が伝えられています。

### 金木八幡宮 11

祭神菅田別尊ほか、天照大神・素戔鳴命・軻遇突智命・倉稻魂命を合祀しています。創祀年代は未詳ですが、大永年間(1521~27)北畠家が再建、天正年間(1573~92)には津軽が信が怨敵退散の祈禱を命じたとされます。以

降代々藩主が新田開発の成就祈願を行い、安永3年(1774)には金木組24ヶ村の鎮守社となりました。

### 太宰治記念館「斜陽館」(旧津島家住宅)[国重文] 12

金木中心部に位置する作家太宰修の生家。明治40年(1907)大地主津島源右衛門(太宰の実父)が巨費を投じて建造しました。戦後津島家が手放し、昭和25年(1950)から旅館「斜陽館」として営業していましたが、平成8年(1996)旧金木町が取得、津島家関連資料や太宰治資料を紹介する記念館として再生しました。平成16年(2004)「旧津島家住宅」として国重要文化財に指定されました。開館時間 5月~10月 8:30~18:00(最終入館は17:30)、11月~4月9:00~17:00(最終入館は16:30)/休館日 12月29日/観覧料 一般500円、高・大学生300円、小・中学生200円/TEL0173-53-2020



### 太宰治疎開の家「津島家新座敷」 13

太宰治の長兄津島文治夫婦の新居用に、大正11年(1922)本宅(現在の斜陽館)の離れとして建設されました。太宰一家が疎開した家としても知られます。現在地へ曳き家移転した後、津島家の手を離れ、平成18年(2006)より一般公開されています。



### 金竜山南台寺 14

真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。草創については、文禄2年(1593)教如の法弟摂津国体西坊の開創とする説や、延宝3年(1675)あるいは元禄3年(1690)とする説があります。正徳4年(1714)5代藩主津軽信寿寄進とされる梵鐘は、昭和19年(1944)軍需用に供出されました。

### 金木山雲祥寺 15

曹洞宗寺院。本尊釈迦牟尼仏。慶長元年(1596)繁翁茂(正保2年(1645)呑益説もあり)が金木村に開基、寛文7年(1667)弘前長勝寺14世聖眼雲祝を勧請開山として、文化8年(1811)愚念が中興したと伝えられます。梵鐘は正徳5年(1715)初鑄、鐘楼を兼ねた入母屋造の山門は享和3年(1803)金木屋武田家寄進とされます。

■太宰治文学碑(雲祥寺) 平成20年(2008)幼少の太宰治が通った雲祥寺境内に建立されました。碑文は太宰の直筆、金木文化会機関紙「金木文化」創刊号に寄せた「汝を愛し汝を憎む」。碑には、初期の太宰作品「思ひで」のエピソードにちなんだ後生車を取り付けられています。

### 青蓮山妙乗寺 16

日蓮宗寺院。本尊十界曼陀羅。宝永5年(1708)日良が川内村(中泊町中里)に妙乗庵を創立。正徳4年(1714)荒閑利右衛門の帰依により金木村に移転。享保12年(1727)現山寺号を称し、現在に至ります。

### 嘉瀬館跡 17

嘉瀬集落北端小田川右岸の台地上に立地する城館。「館ッコ」「お城ッコ」と通称されます。長さ70mほどの空堀が認められますが、館主・築城時期などについては不明です。平安時代の土師器が採集されていることから、成立は古代に遡ると考えられます。

### 十二本ヤス 18

一本の幹から12本に枝分かれしているヒバの巨木。樹齢推定400年・樹高27m・幹周600㎝。魚を突くヤスのような形態をしていることから、十二本ヤスと称されます。袖夫の山ノ神として信仰されてきました。



### 金木町玉鹿石[県天然記念物] 19

金木喜良市一青森内真部間を結ぶ県道2号沿いに露頭する鉱石。青森県特産のいわゆる「にしき石」の一種で、藩政時代から多くの人々に親しまれてきました。

### 長富文化の松 20

二ノ沢溜池西岸に佇むクロマツ。推定樹齢180年・樹高15m・幹周220cm。文化6年(1809)金木組長富村の開拓に成功した新岡仁兵衛が、記念に植えた松と伝えられ、五所川原市の名木・古木に指定されています。